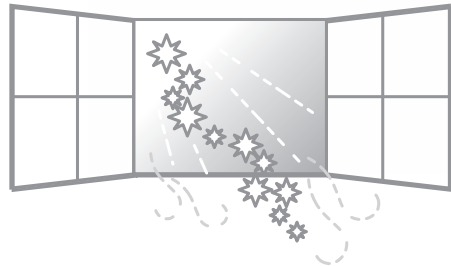


「共に過ごし、育まれる心」

人権の窓を開けて、優しい陽の光と、さわやかな風を感じてください



広

報なんたん一月号に全国中学生人権作文コンテストの入賞作品が掲載されていました。八木中学校の村君の作文は目の見えない女の子のことに書いて書かれたものでした。中村君はその女の子と二日間一緒に過ごし、その女の子の無心に一生懸命生きている姿に感動し、「小さいけれどとても偉大に感じた」と書いていました。

この作文を読み、私は学生時代に手の不自由な友人と出会ったことを思い出しました。出会った時は、どう接してよいのかわからずにいましたが、時がたつにつれて、共に学び遊ぶうちに、いつの間にかとても仲良くなつていました。話すことや一緒に過ごすことの大切さを強く感じた経験でした。

私

の勤務校の鶴ヶ岡小学校の小規模校で、音読や合唱、掃除や遊びなど、いろいろなことを全校一緒に行っています。このように全校生が交わる機会を多くすることで、上級生は下級生のことを気遣

い、優しく面倒を見る態度が自然と身に付いてきているようです。

また特別支援学級の児童と共に遊んだり学習したり、美山町の「こぶしの里」(生活支援総合センター)を訪問して交流したりもしています。

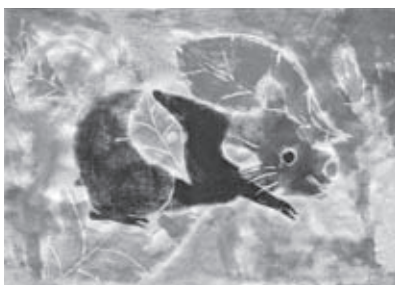
子

どもたちは年齢の違う人や障がいのある人、外国の人など、自分と違ういろいろな人と接し、共に活動する機会を多く持つことで、相手のことが分かり、自然に思いやりのある接し方ができるようになっていくと思えます。

そうした子どもたちの気づきや変容に共感し、心豊かに育つ子どもたちを支えていきたいと思っています。

鶴ヶ岡小学校特別支援学級担任

鳥羽敏之



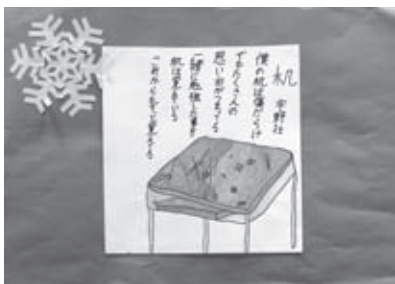
▲「今年の干支版画」
西田 沙矢さん(5年)



「なわとびをしているぼく」
横畑 恵大さん(2年)



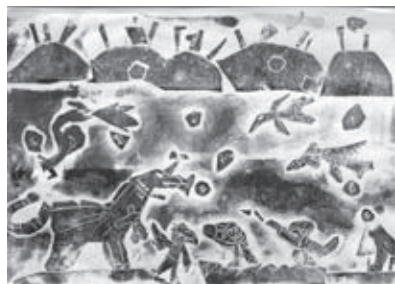
▲「あるくライオン」
高屋 雄太さん(1年)



▲「思い出」 宇野 荘さん(6年)



▶「顔」 岡本 幸大さん(4年)



▲「たたかい」 大内 琉成さん(3年)

なんたんミュージアム ⑧

南丹市立園部第二小学校